

茨城新聞 2019.12月号で同時配布された小冊子『iChat (あいちゃつと)』に、“身近なボランティア”特集の中の一つとして「ひたちおもちゃの病院」が紹介されました。

ひたちおもちゃの病院
子どもたちに物を大切に
心も学んでほしい

「子どもは、私たちが思っている以上に、自分のおもちゃを大切にしていると思いますね」と、目



ひたちおもちゃの病院
山本三男院長

を細める、ひたちおもちゃの病院院長の山本三男さん。おもちゃの病院は、壊れたおもちゃを修理するボランティアです。

ひたちおもちゃの病院は、日立市にある、シニアライフを心豊かに生きることを目指す定年退職者や主婦のグループ「熟年ネットひたち」の中の自主グループ活動のひとつで、現在の会員は20名。日立市内に6カ所の診療所があり、それぞれ月1回開院します。依頼のあるおもちゃは、電車やミニカー、動くぬいぐるみなどを中心に多岐に及びます。どこが壊れていてどう修理すればいいのかを、おもちゃドクターが診断し、時には入院加療になることもあります。

中にはどうしても修理不可能なものもありますが、「おもちゃが治ったときの子どもの笑顔を見ると、やってよかった

- 十王診療所 十王交流センター
第1水曜日 13:30~15:30
 - 北診療所 田尻交流センター
第1土曜日 13:30~15:30
 - 中央診療所 福祉プラザ
第3火曜日 13:00~15:00
 - 成沢診療所 成沢交流センター
第4金曜日 13:00~15:00
 - 塙山診療所 塙山交流センター
第3水曜日 10:00~12:00
 - 南診療所 大みか交流センター
第2火曜日 13:00~15:00
- 園山本院長 Tel.090-6189-6244

7月に行われた「エコフェスタひたち2019」の様子。1日に約20個の診療依頼がありました。受け付けは子どものおもちゃのみで、壊れた部品や取扱説明書を持参します。(修理費用: 1個あたり200円) 診療所には、市外から来る人もいます。



たなと思いますし、修理できたときの達成感も大きいです”。物を大切に心も学んでほしい、と山本さんは話します。